

# 小樽の歴史的建造物を巡ろう

原風景の祝津から近代建築の縮図まで

---

## 奥沢の水道施設と醸造

小樽の水はおいしい、と評判である。その水道水をつくる施設として奥沢ダムと浄水場が大正3年、勝納川の上流にできた。着工から完成まで6年をかけた難工事であった。ダムと言っても鉄筋コンクリートの壁(堤体)ではなく、粘度と碎石を突き固めて水をせき止めるアースダムと呼ぶ構造である。貯水池に浮かぶように見える取水塔から浄水場へ水を引き込み浄化する。昭和60年に「近代水道百選」に選ばれる名高い水源地であったが、2011年に漏水箇所が見つかりダム機能を中止した。現在、近代水道施設の成り立ちを見学しながら憩える広場にするため、第二の利用計画が検討されている。

一方、勝納川の中流には良好な水を使う北の誉酒造がある。元は明治期の醤油醸造場であった。明治35年の創業時の貯蔵庫をはじめ酒造施設が群をなしている。川向の丘陵には、社長宅として建てられた和光荘(大正11年)がある。アール・デコの幾何学模様を基調とした邸宅は、隆盛を極めた小樽商人の気品を象徴している。同時代に活躍した実業家岡崎謙の邸宅中庭にあった能舞台(大正15年、現在小樽公園に移築)も高尚な趣味が形となった事例である。